

古事類苑

帝王部三

神器下

晝御座御劍 大刀契圖

南北朝神器授
受始末

〔太平記〕天下怪異事

其年元弘八月二十二日、東使兩人三千餘騎ニテ上洛スト聞エシカバ中今度東使ノ上洛ハ、

主上醍醐ヲ遠國ヘ遷シ進ラセ、大塔宮良ヲ死罪ニ行ヒ奉ランタメナリト、山門曆寺ニ披露有

ケレバ、八月二十四日夜ニ入リテ、大塔宮ヨリ竊ニ御使ヲ以テ、主上ヘ申サセ給ヒケルハ、今度東

使上洛ノ事、内々承候ヘバ、皇居ヲ遠國ニ遷シ奉リ、尊雲良ヲ死罪ニ行ハン爲ニテ候ナル、今夜

急ニ南都ノ方ヘ御忍候ベシ中ト申サレタリケル間略中藤房卿進デ申サレケルハ中兎角

ノ御思案ニ及候ハ、夜モ深候ナン、早御忍候ヘトテ、御車ヲ差寄、三種ノ神器ヲ乘奉リ、下簾ヨリ

出絹ヲ出シテ女房車ノ體ニ見セ、主上ヲ扶乗セ進ラセテ、陽明門ヨリナシ奉ル中先南都東南

院ヘ入セ給フ略中同廿七日、潜幸ノ儀式ヲ引ツクロヒ、南都ノ衆徒少々召シ具セラレテ、笠置ノ

石室ヘ臨幸ナル、

〔増鏡十五時略〕此御いそぎ過ぬれば、まづ六波羅を御からしあるべしとて、かねてより宣旨にきた

がへりしつはもの共を忍びてめす略中比叡の山の衆徒も、御門の御軍にくはゝるべきよし奏

しけり、つゝむとすれど事ひろく成にければ、武家にもはやうもれきゝて、さにこそあなれと用

意す、先九重をきびしくかため申べしなどさだめけり、かくいふは元弘元年八月廿四日なり、雜